

教科名	地理歴史	単位数	2 単位		担 当	
科目名	地理総合	必修 選択	必修	選択	学 年	1 年
教科書 副教材等	わたしたちの地理総合（二宮書店）、新詳高等地図（帝国書院） わたしたちの地理総合ワークブック（二宮書店）					
選択対象者						
科目の 目 標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成する					
身に付けさせたい資質・能力						
健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力、自己主張力、情報収集・発信力、人間力、忍耐力						
1 授業内容・具体的目標						
・地図と GIS の活用：地図・地理情報システムの読み取りと活用、世界を地理的視点で捉える学習をする。 ・生活文化の多様性と国際社会：自然環境と生活と文化、産業の発展と生活文化、言語と宗教と生活文化、グローバル化の進展と生活文化を学習をする。 ・地球的課題と国際協力：人口・食糧問題、居住・都市問題、資源エネルギー問題を学習する。 ・生活圏の諸課題：自然環境と防災、持続可能な地域づくりについての理解と考察する学習をする。						
2 授業の進め方						
・ワークブックでの作業&講義形式。（通常） ・黒板やモニターに必要事項を書いたり、投影したりしていくが、必要に応じて板書以外の説明内容や自分の考えなどを主体的にメモするようにする。 ・教科書・ワークブック、その他の資料を利用して考察・発表。 ・グループワークによる調査・考察・発表活動。						
3 評価の規準						
【知識・技能】 ・地理的事象について、世界の多様性、防災、地域や地球的課題への取組を理解できる。 ・地図や地理情報システムなどを活用し、諸資料から地理的情報を適切かつ効果的に調査し、まとめ、表現することができる。 【思考・判断・表現】 ・地理的事象の意義や特色から、地理的課題の解決に向けて構想をめぐらし議論することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・よりよい社会の実現のための課題を設定し、地理的事象への考察、主体的に追究することができる。 ・世界の諸地域の多様な生活文化を尊重し、自他ともに向上するための方法を考察できる。						
4 評価の方法						
【知識・技能】 ・考查 ・小テスト 【思考・判断・表現】 ・ワークブック・ノート等の取組状況 ・考察課題や発表、グループワークの取組 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ワークブック・ノートの提出・取組状況 ・グループワークの取組姿勢 ・授業中の態度 ・その他の頑張り						
＜成績(評定)＞の付け方 ・①「知識・技能」、②「思考・判断・表現」、③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、達成率をもとにA B C で評価し、それをもとに総合的に評定を決める。 ・3観点は①が40％、②・③は各30％として扱う。						

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4 ・ 5	オリエンテーション 1章 地図とGISの活用 (12時間)	・球面上の世界 ・国家の領域と領土問題 ・国内や国家間の結びつき ・日常生活のさまざまな地図	諸連絡等 ・球体としての地球、時差、図法による地図表現の違いを理解し、活用することができたか。 ・国家の3要素、日本の領有権問題などを理解し、考察することができたか。 ・国家間の関係を地域経済圏・国際連合・観光・交通・通信・貿易・物流の視点から理解し考察することができたか。 ・地図・GISソフトウェアを用いて、地理空間情報を活用し、表現活動ができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
6 ・ 7 ・ 8	2章 生活文化の多様性と国際理解 (31時間)	・自然環境と生活	・プレートテクトニクス理論、河川・海岸部の地形と暮らしの特徴を理解し、写真や地図から読み取ることができたか。 ・大気循環・日射・地形・海流と気候の関係を理解できたか。 ・各気候の自然環境と生活を資料から読み取り、考察し、まとめ表現する活動ができたか。 ・農業・工業・第3次産業と生活文化との関連性を捉え、地理的環境や歴史的背景を理解できたか。	
9		・産業の発展と生活文化 農業：南アジア 工業：中国、タイ、ベトナム ・言語・宗教と生活文化	・言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、地域的特色を理解できたか。 ・世界の諸課題を理解し、互いに多様な文化を尊重する社会の実現方法について議論、考察できたか。	
10 ・ 11	【前期期末考査】 3章 地域的課題と国際協力 (16時間)	・グローバル化の進展と生活文化 ・人口・食料問題 ・居住・都市問題	・EUが抱える諸課題、アメリカ建国時から多様性を育んできた背景を理解できたか。 ・世界の人口問題に触れ、人口ピラミッド等の資料による考察を深めることができたか。 ・都市問題への対応が各国で異なることを理解し、その要因と解決の方策を考察することができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	4章 生活圏の諸問題 (17時間)	・資源・エネルギー問題 ・地球環境問題 ・自然環境と防災 ・持続可能な地域づくり	・エネルギー資源を諸資料をもとに読み取り、資源の持続可能な利用の方策を考察できたか。 ・地球環境問題を構造的に理解し、持続可能な発展のための課題とその解決策を具体的に考察できたか。 ・日本の地形と気候、災害要因・特徴を理解し、防災・減災への取組や課題をハザードマップを活用し、考察できたか。 ・地域調査の手順の理解(景観観察・アンケート・聞き取り調査など)、得られた情報をまとめ、将来に向けた地域のあり方を構想することができたか。	
	【後期期末考査】			

時数合計 (70)

教科名	地理歴史	単位数	2 単位		担 当	
科目名	歴史総合	必修 選択	必修	選択	学 年	2 年
教科書 副教材等	高等学校 新歴史総合（第一学習社） 高等学校 新歴史総合 教科書準拠 新歴史総合ノート					
選択対象者						
科目の 目 標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成する。					
身に付けさせたい資質・能力						
健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力、自己主張力、情報収集・発信力、人間力、忍耐力						
1 授業内容・具体的目標						
・歴史の扉：私たちの生活や身近な諸事象には歴史が関係していることを学習する。 ・近現代と私たち：18・19 世紀の歴史的諸事象を理解し、当時の世界の様子の大観学習をする。 ・国際秩序の変化や大衆化と私たち：20 世紀の歴史的諸事象を理解し、当時の世界の様子、平和的社会の実現・継続に向けた人類の歩みを学習する。 ・グローバル化と私たち：冷戦後の歴史的諸事象を理解し、平和的で民主的な社会の実現を構想する学習をする。						
2 授業の進め方						
・ワークブックでの作業&講義形式。（通常） ・黒板やモニターに必要な事項を書いたり、投影したりしていくが、必要に応じて板書以外の説明内容や自分の考えなどを主体的にメモするようにする。 ・教科書・ワークブック、その他の資料を利用して考察・発表。 ・グループワークによる調査・考察・発表活動。						
3 評価の規準						
【知識・技能】 ・近現代の歴史的な事象を世界と日本の視点で捉え、近・現代社会が成立する過程で現代まで続く成果や諸課題が生じたこと理解することができる。 ・諸資料を活用し、近現代史における歴史的な事象に関する情報を適切・効果的に読解することができる。 【思考・判断・表現】 ・近現代の歴史的な事象の意義や特色をもとに現代とのつながりに着目し、考察することができる。 ・歴史的課題を把握し、解決をめざして構想し、説明や議論することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・近現代の歴史的な事象や諸課題を知り、未来志向の平和的社会をめざし主体的・共同的に活動できる。						
4 評価の方法						
【知識・技能】 ・考査 ・小テスト 【思考・判断・表現】 ・ワークブック・ノート等の取組状況 ・考察課題や発表、グループワークの取組 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ワークブック・ノートの提出・取組状況 ・グループワークの取組姿勢 ・授業中の態度 ・その他の頑張り						
＜成績(評定)＞の付け方						
・①「知識・技能」、②「思考・判断・表現」、③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、達成率をもとにA B C で評価し、それをもとに総合的に評定を決める。 ・3 観点は①が4 0 %、②・③は各3 0 %として扱う。						

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4 ・ 5	オリエンテーション ●第1部 歴史の扉 1章 近代化と私たち 2章 歴史の特質と資料 (2時間) ●第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち (22時間)	・18世紀のアジアの繁栄 ・工業化の進展と国民国家の建設	諸連絡等 ・私たちの生活や身近な諸事象は、歴史と関係することを理解し、表現できたか。 ・人々の歴史的営みが、遺物、文書、画像などに集約され、歴史の伝承物となることを理解できたか。 ・18世紀のアジアと日本の生産、流通、貿易に着目し、経済と社会の様子を理解し、アジア諸国の経済的特徴と欧米諸国との関係を考察し、まとめ、表現することができたか。 ・18世紀の世界情勢、産業革命、交通・通信手段、中国と日本の開港に触れ、工業化と世界市場の形成を理解し、アジアと欧米諸国の関係変容を考察し、表現できたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
6		・結びつく世界と日本の開国	・18世紀後半以降の市民革命、国民統合の動き、明治維新、大日本帝国憲法の制定などを基に、国民国家の形成を理解し、政治変革や国民国家の特徴、社会変容などを考察し、表現できたか。	
7 ・ 8		・帝国主義とアジア諸国の変容	・19世紀の世界情勢、列強の進出、植民地形成、日清・日露戦争に触れ、帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解し、帝国主義政策の特徴、列強間の関係変容などを考察し、表現できたか。	
9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち (27時間)	・第一次世界大戦と大衆社会	・20世紀前期の世界情勢、各国の経済成長、ソヴィエト連邦の成立、アメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの活発化、国際連盟の成立などに触れ、第一次世界大戦が与えた影響を理解し、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア・太平洋地域の関係、国際協調体制などを考察し、まとめることができたか。 ・第一次世界大戦後の社会思想の大衆化による変化に触れ、社会の変容と社会運動の様子を理解することができたか。	
10	【前期期末考査】	・経済危機と第二次世界大戦	・20世紀中期の世界情勢、世界恐慌、ファシズムの台頭、日本の対外政策を理解し、各国の世界恐慌への対応をまとめ、この時代の様子をまとめることができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
11		・第二次世界大戦後の世界と日本	・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、戦後日本の戦後改革、独立回復の様子を理解し、第二次世界大戦の性格と惨禍を多面的・多角的に考察し、表現できたか。	
12 ・ 1	第3章 グローバル化と私たち (19時間)	・冷戦と植民地化・第三世界の台頭	・20世紀後半の世界情勢、アジア・アフリカ諸国の独立、冷戦下の諸対立、各国の政治動向、軍備拡張や核兵器の管理を理解し、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを考察し、表現できたか。	

2 ・ 3	【後期期末考査】	・ 世界秩序の変容と日本	・ 石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などに触れ、市場経済の変容と課題を理解することができたか。 ・ 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応の様子を理解し、国際政治の課題解決の方策を追究する活動に主体的に取り組むことができたか。	
-------------	----------	--	--	--

時数合計 (70)

教科名	地理歴史	単位数	3 単位		担 当	
科目名	日本史探究	必修 選択	必修	選択	学 年	3 年
教科書 副教材等	精選日本史研究（実教出版） 精選日本史研究演習ノート（実教出版）					
選択対象者	人文コース、資格教養コース					
科目の 目 標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成する。					
身に付けさせたい資質・能力						
健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力、自己主張力、情報収集・発信力、人間力、忍耐力						
1 授業内容・具体的目標						
・原始・古代の日本と東アジア：原始・古代の様子と東アジア世界の動向を学習する。 ・中世の日本と世界：古代から中世への歴史の転換の様子とその影響を学習する。 ・近世の日本と世界：中世から近世への転換の様子、近世の歴史的事象の意義を学習をする。 ・近現代の地域・日本と世界：近世から近代への時代の転換の様子を学習する。						
2 授業の進め方						
・ワークブックでの作業&講義形式。（通常） ・黒板やモニターに必要事項を書いたり、投影したりしていくが、必要に応じて板書以外の説明内容や自分の考えなどを主体的にメモするようにする。 ・教科書・ワークブック、その他の資料を利用して考察・発表。 ・グループワークによる調査・考察・発表活動。						
3 評価の規準						
【知識・技能】 ・我が国の歴史的事象とそれにかかわる周辺・関係諸国に関する諸資料から、歴史的情報を収集、活用する技能を身に付け、政治、社会、文化の特色や変容を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ・我が国と関係諸国の様子を把握し、各時代の政治、社会、文化の特色や変容を考察し、歴史的事象の解釈に根拠を示しながら表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・我が国と周辺地域・関係諸国の歴史を知り、未来志向の平和的で持続可能な社会の実現をめざし、主体的に追究することができる。						
4 評価の方法						
【知識・技能】 ・ 考査 ・ 小テスト 【思考・判断・表現】 ・ ワークブック・ノート等の取組状況 ・ 考察課題や発表、グループワークの取組 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ ワークブック・ノートの提出・取組状況 ・ グループワークの取組姿勢 ・ 授業中の態度 ・ その他の頑張り						
<成績(評定)>の付け方 ・ ①「知識・技能」、②「思考・判断・表現」、③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、達成率をもとにA B Cで評価し、それをもとに総合的に評定を決める。 ・ 3観点は①が40％、②・③は各30％として扱う。						

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4	オリエンテーション 第1編 原始・古代 の日本とアジア	旧石器時代～平安時代までの我が国の様子、同時期の東アジア世界の動向に関連付けて学習する。 ・旧石器時代～弥生時代	諸連絡等 ・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立時の日本列島の歴史的環境と文化の形成を理解し、原始社会の特色、古代の国家や社会との関わりについて考察することができたか。 ・古代の国家や社会の展開について理解し、歴史的事象の意味や関係性を考察し、歴史の解釈やその根拠を示し表現することができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
5	第1章 国家と文化の形成 (8時間)			
	第2章 古代国家の確立 (8時間)	・飛鳥時代～平安時代中期		
	【前期中間考査】			
	第2編 中世の日本と世界	平安時代末～戦国時代までの我が国の様子と周辺地域の動向と関連付け学習する。 ・平安時代末期～鎌倉時代		・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
6	第3章 中世社会の成立 (8時間)		・貴族の世から武士の世に転換した様子、鎌倉幕府から室町幕府に変わった様子を理解し、なぜ支配層が交代したのかを考察し自身の考えをまとめ表現することができたか。	
7	第4章 中世社会の展開 (7時間)	・室町時代～戦国時代		
8	第3編 近世の日本と世界	織豊政権以降の我が国の様子、周辺地域との関係に触れ、乱世から泰平の世への転換の様子を学習する。 ・安土桃山時代～江戸時代（三大改革）	・織豊政権後の歴史の展開を理解し、近世の歴史的事象から当時の人々の生き方・考え方を多面的・多角的に考察し、現代との相違をまとめ表現できたか。	
9	第5章 統一政権の成立 (10時間)			
	第6章 幕藩体制の展開 (12時間)			
	【前期期末考査】			
10	第4編 近現代の地域・日本と世界	日本をとりまく対外事情の変化と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などの時代の大転換期の様子を学習する。 ・江戸時代（幕末）～明治時代	・近代国家への展開を理解し、主題を設定し、歴史的事象の意義や関係性を考察することができたか。 ・歴史的事象の解釈について、根拠を示して自身の考えを表現し、思考力、判断力、表現力を高めることができたか。 ・欧米諸国のアジア進出による政治・経済、思想への影響などを理解し、日清・日露戦争、第一次世界大戦が及ぼした影響、国際社会と我が国の関係を理解できたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
11	第7章 大日本帝国の展開 (16時間)	・大正～昭和初期		
	第8章 大日本帝国とデモクラシー (16時間)			
	【後期中間考査】			
12	第9章 アジアの戦争と第二次世界大戦 (13時間)	・昭和（軍部台頭）～終戦	・現代の国家や社会に至る、歴史的意義や事象の関係性を理解し、平和的社会の形成者として必要な思考力、判断力、表現力を身に付けることができたか。 ・持続可能な社会の実現ために、主題を設定して、自身の意見をまとめ、探究することができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
1	第10章 現代日本社会の形成と展開 (10時間)	・昭和（戦後）～令和		
2				
3	【後期期末考査】			

教科名	公民	単位数	2 単位		担 当	
科目名	公 共	必修 選択	必修	選択	学 年	2 年
教科書 副教材等	高等学校 公共 私たちがひらく未来・社会（清水書院） 高等学校 公共 教科書準拠ワークノート（清水書院）					
選択対象者						
科目の 目 標	人間と社会についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究あるいは解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な資質・能力を育成する。					
身に付けさせたい資質・能力						
健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力、自己主張力、情報収集・発信力、人間力、忍耐力						
1 授業内容・具体的目標						
・公共の扉をひらく：公共的空間をつくる私たち、公共的空間における人間、公共的空間における基本原理						
・基本的人権の尊重：民主政治の原理、人権の尊重と日本国憲法						
・現代の民主政治と社会参画：民主政治の成立と課題、日本の政治機構、国際政治の仕組みと役割、国際政治の現状と課題						
・現代の経済社会と国民生活：私たち経済活動、経済社会のしくみと役割、国際経済の現状と課題						
・持続可能な社会をつくる						
2 授業の進め方						
・ワークブックでの作業&講義形式。（通常）						
・黒板やモニターに必要事項を書いたり、投影したりしていくが、必要に応じて板書以外の説明内容や自分の考え等を主体的にメモするようにする。						
・教科書・ワークブック、その他の資料を利用して考察・発表。						
・グループワークによる調査・考察・発表活動。						
3 評価の規準						
【知識・技能】						
・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解できる。						
・諸資料から活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。						
【思考・判断・表現】						
・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的原理を活用して、事実を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力、合意形成、社会参画を視野に入れた議論することができる。						
【主体的に学習に取り組む態度】						
・よりよい社会の実現をめざし、現代の諸課題を主体的に解決しようと行動することができる。						
・考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としての在り方・生き方、主権を担う公民としての意識、協力の大切さや自覚などを深めることができる。						
4 評価の方法						
【知識・技能】						
・考査						
・小テスト						
【思考・判断・表現】						
・ワークブック・ノート等の取組状況						
・考察課題や発表、グループワークの取組						
【主体的に学習に取り組む態度】						
・ワークブック・ノートの提出・取組状況						
・グループワークの取組姿勢						
・授業中の態度						
・その他の頑張り						
<成績(評定)>の付け方						
・①「知識・技能」、②「思考・判断・表現」、③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、達成率をもとにA B C で評価し、それをもとに総合的に評定を決める。						
・3観点は①が4 0 %、②・③は各3 0 %として扱う。						

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4	オリエンテーション 第1編 公共の扉を ひらく ・第1章 公共的な 空間をつくる私たち (8時間)	・青年期の特徴と発達課題、人間の心の在り方、ギリシア哲学や宗教、日本の思想が我が国の風土や伝統、外来思想に触れ、人間としての在り方生き方について考察する。	諸連絡等 ・青年期、大人、自立等についての理解と考察ができているか。 ・幸福・公正・正義などについての理解を深め、人間としての在り方生き方への主体的判断・考察ができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
5	・第2章 公共的な 空間における人間 (3時間)	・近代哲学の思想、生命科学や医療技術の進展、地球環境問題に触れ、社会の構成員としての意識を持ち、「幸福」「正義」「公正」などの観点から、社会のあり方を考察する。	・近代哲学の思想、生命科学や医療技術の進展、地球環境問題の理解と考察ができているか。 ・幸福・公正・正義などについての理解を深め、社会のあり方への主体的判断・考察ができたか。	
6	・第3章 公共的な 空間における基本原 理 (7時間)	・近現代の哲学思想、政治倫理の学習を通して、自然と人間との関わりを理解し、社会と人間の在り方や諸課題を考察する。	・近現代の哲学思想、政治倫理の理解と考察ができているか。 ・社会と人間の在り方や諸課題への主体的判断・考察ができたか。	
7	第2編 基本的人権 の尊重と法	・近代政治思想と近代民主主義国家の基本的な原理を理解し、国民の自由・権利が保障されていることの意義を考察する。	・法・自由・権利、日本国憲法への理解を深めることができたか。	
8	・第1章 民主政治 の原理 (2時間) ・第2章 人権の尊 重と日本国憲法 (8時間)	・日本国憲法成立とその歴史的背景・経緯を理解する。		
9	第3編 現代の民主 政治と社会参画 ・第1章 民主政治 と課題 (5時間) ・第2章 日本の政 治機構 (5時間) 【前期期末考査】	・民主社会成立の過程、現代民主政治のしくみ、世界の政治制度について理解する。 ・世論や政治参加の意義を理解し、主権者として社会に参画する意識を高める。 ・三権分立、地方自治のしくみと諸課題を理解し、国民がよりよく政治に参画する意義を考察する。	・自由民主主義の長所と短所、諸課題に触れ、主権者としての在り方を主体的に判断・考察ができたか。 ・三権、地方自治の諸課題を理解し、政治に参画する意識を高めることができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
10	・第3章 国際政治 のしくみと役割 (6時間) ・第4章 国際政治 の現状と課題 (4時間)	・国際社会の変遷、国際法の考え方、国際機構の役割を理解し、国際社会が抱える課題を考察する。 ・冷戦後の国際社会、軍縮・核兵器廃絶への取組を理解し、国際社会の在り方や課題を考察する。 ・国際紛争の原因を理解し、その解消には国際協調が必要であることを理解する。 ・平和主義と国際協調の間に日本の安全保障や国際貢献があることを理解し、日本の在り方を考察する。	・世界の地域紛争の理解、日本の安全保障に関する理解と考察ができたか。	

11	第4編 現代の経済社会と国民生活 ・第1章 私たちと経済活動 (3時間) ・第2章 経済社会のしくみと役割 (9時間)	・経済的役割や経済理論を理解し、日常の経済活動と福祉の向上との関連づけを考察する。 ・市場経済の機能、金融・財政、企業のしくみについて理解し、それらの役割や課題について考察する。 ・日本経済の歩みを理解しその過程で発生した諸課題に対し、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、多面的・多角的に考察する。	・経済的役割や経済理論を理解することができたか。 ・市場経済の機能、金融・財政、企業のしくみ、について理解することができたか。 ・日本経済の歩みの過程で発生した諸課題に対し、主体的判断・考察することができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
12	・第3章 国際経済の現状と課題 (3時間)	・国際経済の基本的な理論を身につけさせ、経済が抱える課題を考察する。 ・国際的な課題解決には国際協調や相互理解、寛容の態度が必要であることを理解する。	・国際経済の理論や課題を知り、主体的判断・考察することができたか。	
1				
2				
3	第5編 持続可能な社会をつくる (7時間) 【後期期末考査】	・これまでの学習を基礎に、人工知能・環境・資源・少子高齢化・地域社会について、自ら課題を見出し、その解決策を考察する。 ・持続可能な社会の構築のために、主体的に社会に参画し、共に生きる社会を築く姿勢を身につける。	・自ら情報を収集し、自らの考えをまとめることができたか。	

時数合計 (70)

担任には報告もなかった。「親呼んで指導したいなら、指導する」とするだけで、取り合っ

教科名	公民	単位数	2 単位		担 当	
科目名	政治・経済	必修 選択	必修	選択	学 年	3 年
教科書 副教材等	最新政治・経済（実教出版） 最新政治・経済演習ノート（実教出版）					
選択対象者						
科目の 目 標	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究あるいは解決に向けて構想する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成する。					
身に付けさせたい資質・能力						
健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力、自己主張力、情報収集・発信力、人間力、忍耐力						
1 授業内容・具体的目標						
		・現代日本の経済：経済活動の意義や変容、経済主体、市場、企業、国民所得、経済成長、金融、日本銀行、財政、経済的諸課題 ・現代日本の政治：民主政治、法の支配、日本国憲法、政党政治、選挙制度、世論 ・現代日本における諸課題の探究：持続可能な社会、防災、再生健全化など ・現代の国際政治：国際社会とその変遷、国際法、国際機構、人種・民族問題、軍縮 ・現代の国際経済：貿易、外国為替市場、戦後の国際経済、グローバル化、地球規模の課題、国際協力 ・国際社会における諸課題の探究：難民、外国人労働者、科学技術の進展、経済格差、持続可能な平和				
2 授業の進め方						
		・ワークブックでの作業&講義形式。（通常） ・黒板やモニターに必要事項を書いたり、投影したりしていくが、必要に応じて板書以外の説明内容や自分の考えなどを主体的にメモするようにする。 ・教科書・ワークブック、その他の資料を利用して考察・発表。 ・グループワークによる調査・考察・発表活動。				
3 評価の規準						
		【知識・技能】 ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解できる。 ・諸資料から活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。 【思考・判断・表現】 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的原理を活用して、事実を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力、合意形成、社会参画を視野に入れた議論することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・よりよい社会の実現をめざし、現代の諸課題を主体的に解決しようと行動することができる。 ・考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としての在り方・生き方、主権を担う公民としての意識、協力の大切さや自覚などを深めることができる。				
4 評価の方法						
		【知識・技能】 ・考査 ・小テスト 【思考・判断・表現】 ・ワークブック・ノート等の取組状況 ・考察課題や発表、グループワークの取組 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ワークブック・ノートの提出・取組状況 ・グループワークの取組姿勢 ・授業中の態度 ・その他の頑張り				
<成績(評定)>の付け方						
・①「知識・技能」、②「思考・判断・表現」、③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、達成率をもとにABCで評価し、それをもとに総合的に評定を決める。 ・3観点は①が40％、②・③は各30％として扱う。						

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4	オリエンテーション 第1部 現代日本の政治・経済 第2編 現代日本の経済 第1章 現代の経済社会 (10時間)	・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解する。	諸連絡等 ・経済理論や現代日本をとりまく経済のしくみを理解し、諸資料から、課題解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切に、効果的に収集し、読み取ることができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
5	第2章 現代の日本経済と福祉の向上 (7時間)	・経済活動と福祉の向上、市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について考察し、表現する。		
6	第3編 現代日本における課題の探究 (7時間) 【前期中間考査】	・現代日本の諸課題の解決に向け政治・経済に関連させて考察、構想し、よりよい社会の在り方について自分の考えを説明する		
7・8	第1編 現代日本の政治 第1章 現代国家と民主政治 (4時間)	・政治と法、基本的人権の保障、法の支配、権利と義務、議会制民主主義、地方自治のしくみを諸事象を通して理解し深める。	・民主主義の考え方や政治理論、法体系と社会のしくみを理解し、現代日本の政治課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切に、効果的に収集し、自分の考えを発表できたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
9	第2章 日本国憲法と基本的人権 (11時間) 第3章 日本の政治制度と政治参加 (7時間) 【前期期末考査】	・政党政治、選挙などの観点から、望ましい政治、主権者としての政治参加の在り方を考察し、自身の意見や考えを表現する。	・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について考察し、自分の考えを表現できたか。	
10	第2部 現代の国際政治・経済 第1編 現代の国際政治 第1章 国際政治の動向と課題 (7時間)	・国際社会の変遷、国際法の意義、国際連合等の国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。	・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について理解し、そこに潜む問題を考察し、自分の考えを表現できたか。 ・国際平和へ日本の役割について考察し、自分の考えを表現できたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
11	第2編 現代の国際経済 第1章 国際経済理論 (4時間) 【後期中間考査】	・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解し、現実社会の諸事象を深める。	・グローバル化や相互依存関係が深まる国際経済の特質を理解することができたか。 ・国際経済の進展により抱える諸課題に対し、多面的・多角的に考察、構想し、自身の考えを表現することができたか。	
12	第2章 国際経済の動向と課題 (7時間)	・現代の国際政治・経済に関する諸資料から、必要な情報を適切に効果的に収集し、課題解決に対しての意識をもち、その道筋を考察する。		・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
1・2・3	第3編 国際社会における諸課題の研究 (6時間) 【後期期末考査】			

時数合計 (70)

教科名	公民	単位数	2 単位		担 当	
科目名	時事問題研究	必修 選択	必修	選択	学 年	3 年
教科書 副教材等	なし					
選択対象者	人文コース					
科目の 目 標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成する。					
身に付けさせたい資質・能力						
健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力、自己主張力、情報収集・発信力、人間力、忍耐力						
1 授業内容・具体的目標						
【授業内容】 ・地球的な課題、国際的問題、地域的問題の背景を学び、まとめる活動をする。 ・グループまたは個人でレポートなどの作品制作を行う。 ・自身の考えをプレゼンテーションや冊子にまとめる成果物を作成する。 【目標】 地球的な課題や国際的な問題、地域の問題を理解し、世界や地域の諸課題の追究・解決方法を考察する活動を通して、表現力を身に着ける。						
2 授業の進め方						
・地球的な課題、国際的問題、地域的問題の背景の学習。 ・各課題や問題に対して自身の考えをまとめ、作品制作を行う。 ・プレゼンテーション、冊子作成のなどの発表活動を行う。 ・グループワークによる調査・考察・発表活動。						
3 評価の規準						
【知識・技能】 ・地球的な課題、国際的問題、地域的問題の内容や背景を理解できる。 ・諸資料を読み解き、その情報を適切に活用できる。 【思考・判断・表現】 ・現代社会の諸課題の解決に向けて、多面的・多角的な考察と公正な判断、表現ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・よりよい社会の実現に向けて、現代の諸課題を主体的に解決するための行動・活動ができる ・課題に対し最後まで取り組み、作品や制作物を提出できる。						
4 評価の方法						
【知識・技能】 考査や小テスト 【思考・判断・表現】 レポートなどの制作物、プレゼンテーションの状況、提出プリント 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加の仕方・態度、提出課題の提出状況や完成度						
＜成績(評定)＞の付け方 ・①「知識・技能」、②「思考・判断・表現」、③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、達成率をもとにA B Cで評価し、それをもとに総合的に評定を決める。 ・3観点は①が40％、②・③は各30％として扱う。						

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4	オリエンテーション (1時間)			
5	地球的な課題 (20時間)	・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・生命倫理の問題 ・高度情報化社会の問題 ・SDGsで考えよう(1)	・地球的課題を理解できたか。 ・諸資料に基づいて調査活動を行い、諸問題に対する対策や自身の考えをまとめることができたか。 ・SDGsの起こりや内容を理解し、活用することができたか。 ・レポート等にまとめる、表現することができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
6		・地域素材の活用Ⅰ		
7	国際的な課題 (20時間)	・人口問題 ・食糧問題 ・経済格差 ・都市問題 ・領土問題 ・難民・民族問題 ・宗教対立 ・SDGsで考えよう(2)	・国際的課題を諸資料に基づいて調査し、理解することができたか。 ・諸問題に対する対策や自身の考えをまとめることができたか。 ・SDGsを踏まえて、活用することができたか。 ・ICTを活用し、プレゼンテーション実施し、学習の成果を表現することができたか。	
8		・地域素材の活用Ⅱ		
9	【前期章末テスト】			
10	地域的な問題 (17時間)	・長万部町が抱える問題 ・北海道が抱える問題 ・日本が抱える問題 ・SDGsで考えよう(3)	・身近な地域や日本が抱える課題を調査し、理解することができたか。 ・諸問題に対する対策や自身の考えをまとめることができたか。 ・SDGsの観点を交え、プレゼンテーション実施し、学習の成果を表現することができたか。	・行動力 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・情報収集 ・発信力 ・人間力 ・忍耐力
11		・地域素材の活用Ⅲ		
12	【後期章末テスト】			
・				
1	年間まとめ (12時間)	研究発表	・1年間の成果物をまとめ、研究冊子等にまとめたか。	
・				
2				
・				
3				

時数合計 (70)